

令和5年度 定期監察結果報告書（概要） ～働き方改革の取組状況について～

I 定期監察の趣旨

「職員の不祥事の未然防止」と「より良い職場づくり」に繋げるため、職員の倫理観や職場環境等に関するテーマを設け、年1回、調査を実施

II 定期監察テーマ

「働き方改革」の取組状況について

III 監察の視点

1. 職員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上が図られているか
2. 「働き方改革」の取組が推進されているか

IV 監察結果

1. コンプライアンス意識の向上

① **コンプライアンス意識向上に向けて、どのように取り組んでいるか。**

- ・ 「倫理条例、規則」及び「コンプライアンス基本方針」を読んだことがある割合は、昨年度よりも高い回答率となった。
- ・ コンプライアンス意識に関する質問については、全ての項目で昨年度よりも低い回答率となった。
- ・ コンプライアンスが職員自身や家族を守るものでもあることを認識し、常に自らの意識を振り返ることができるよう、研修やeラーニング等の機会づくりなど、病院局としての取組が求められる。
- ・ コンプライアンス向上に向けた取組については、局長等職員の「法令の遵守に関する研修」では、必要とする職員への研修が実施できていた一方で、「サービスの根本原則に関する研修」では、全ての職位で実際に参加した取組の割合が低くなっており、研修機会の充実が求められている。

② **医療従事者に求められるコンプライアンスの状況はどうであるか。**

- ・ 全ての職位において、医療従事者として高い倫理観が求められていることを「意識している」との回答率が、4年連続で97%以上となった。
- ・ 個人情報の取扱いに関する取組については、「個人情報が含まれる書類・データの適正な廃棄」との回答率が全ての職位で80%以上と最も多かった。一方で、全ての職位で「研修への参加」の回答率が低い傾向にあることから、研修の充実が望まれる。
- ・ 全ての職位において、他の医療関係職種の職員を「尊重している」との回答が80%以上となり、また、他の医療関係職種の職員と「連携が図られている」との回答率は、全ての職位で昨年度を上回る結果となった。
- ・ 患者や家族への十分な説明を「いつも行っている」との回答率は、全ての職位で昨年度よりも高い結果となり、特に、科長等職員では、92.0%と昨年度と比べ、33.4%上昇した。

③ 服務規律の確保やハラスメント防止に向けて、どのように取り組んでいるか。

- ・ 「倫理条例、規則に基づく報告、届け出のルール」及び「懲戒処分の指針、公表基準」について知っている割合は、昨年度よりも高い回答率となった。
- ・ セクハラについては、局長等職員及び科長等職員を除く職位から「受けたことがある」との回答があり、また、パワハラについては、局長等職員を除く職位の20%以上の職員で経験したことがあるという結果となった。
- ・ セクハラ・パワハラを「指摘し合うことができない」との回答率は、減少傾向にあるものの、特にパワハラにおいては、一般職員の半数以上が、「指摘し合うことができない」と感じているという結果となった。
- ・ 指摘し合うことができない理由では、「指摘したことにより気まづくなりたくないから」や「セクハラ・パワハラとの判断が難しいから」という理由が多かったことから、気軽に話し合える職場の雰囲気づくりや、研修などによるハラスメントの概念や基本知識の浸透を図る必要がある。

2. 「働き方改革」の取組

① 長時間労働の是正や職員の健康増進に向けて、どのように取り組んでいるか。

- ・ 「働きやすく改善されたか」との質問に対し、「変わらない」若しくは「悪くなった」との回答率の合計は、全ての職位で半数を超える結果となったことから、「働き方改革」の効果をより多くの職員が感じられるよう、実効性のある取組が必要である。
- ・ 超過勤務時間について、半数を超える職員が「多い」と認識していないという結果となった。
- ・ 「業務の見直しをしたことがある」との回答は、60%を超える職員が業務改善を行っているという結果となった。今後とも、見直しの好事例の紹介等、より多くの職員に見直しの取組を広げていくことが求められる。
- ・ 「身体的な不安がある」との回答率は、全ての職位で40%以上となり、「精神的な不安がある」との回答は、職位が上がるにつれて高い回答率となったことから、健康維持のためには、「所属における個別面談」や「外部の健康相談窓口」など、相談体制のより一層の充実が求められている。

② ワークライフバランスなど、多様で柔軟な働き方の実現に向けて、どのように取り組んでいるか。

- ・ ワークライフバランスの「希望」について、全ての職位において、「仕事と生活ともに優先」との回答が最も多くなった一方で、「現実」については、全ての職位において、「やや仕事優先」との回答が最も多いという結果となった。
- ・ 休暇の取得状況については、特に科長等職員で休暇がとれないと感じていることが分かった。